

## 南奥駆道(佐田辻く古屋宿)の点検巡視

実施日 2014年4月5日(土)く6日(日) 晴後時雨  
参加者 一泊二日;青木宏充。

日帰り;川島 功・沖崎吉信・生熊敏男・千満子  
・高階美根子・児嶋道夫・奥村順夫・濱野兼吉

行仙岳の山腹は雪化粧をして私達を迎える。登山口の補給路に降り立つと下界の春はウソのように冷たい。

川島代表から本日の作業の説明のあと、特に天候は昼頃に時雨れる予報なので、雨具の用意を促される。私は先頭を切って行仙小屋に向かう。



夜半冠雪した笠捨山(第二ベンチ後) 行者堂で安全勤行後  
小屋には昨日から小屋泊まりの青木さんが迎えてくれ

る。しばらく来ない間に、小屋は竈が新しくなり、棚が出来て備品も整理され、囲炉裏には排煙防止用のロケット・ストープ装置も設置、随分様変わりしているのに驚かされる。全て皆さんからの厚志によるものとのこと。

早速、児嶋さんがCOガス検知器を取付け、外では川島さんのチェンソーが唸り、奥駆道に横たわる倒木を処理。

生熊敏男さんはトユの掃除予定であったが、雪のため新に棚の取付け作業に、奥村さんは車の回送で小屋に待機。青木さんは旧通信道(現鉄塔巡視路)を葛川辻へ、残りの者は笠捨山に向かう。

川島さんはチェンソーを駆使し11本の倒木を処理、児嶋さんは自家製の標識を付け、沖崎さんは鋸で小径を塞ぐ倒木を処理する。女性の生熊・高階さんは、小さい倒木等を処理し、足取りも軽く談笑しながら進む。笠捨山までは順調良く進み山頂で記念写真を撮り休憩

葛川辻に向かうと風が強まり、雪も降り始める。葛川辻で青木さんと合流、巡視路は4本程度の倒木と、橋に大岩があり、棧道も崩れた箇所がかなりあるとの事。

槍ヶ岳から地蔵岳へ向かうと風と雪は一層激しくなり、瞬間に山は白銀の世界と化し、雪は私達にも容赦なく降り注ぎ、風の当たる右側は帽子にも上着にもズボンにも雪が付着、手袋も湿って寒さが増す。鎖場、痩せ尾根も慎重に通過、地蔵岳のお地藏さんに道中の安全を願掛けし、最後の鎖を下る。雪と風が強く地蔵岳を越えた所で昼食の予定であったが、四阿宿まで進み風を避けて昼食。一過性の激しい吹雪は止んだが、風と雪は止まず。四阿宿より国道へ下山も考えたが、空が明るくなり古屋宿へと向かう。



笠捨山山頂で記念撮影



雪が舞う地藏岳鎖場を下る

昼食を終えると出発。古屋宿までは倒木も少なく順調に進む(3本処理)。途中上葛川への分岐で生熊さんからコーヒートと薄皮饅頭で一息を入れ、古屋宿に向かう頃には雪も止み、薄日も差して安心する。遅れた私は一人21世紀の森に下ると、奥村・生熊敏男さん、14時に行仙宿を下山し迎えに見えていて、全員が揃い記念撮影。児嶋さんのコーヒードで疲れを癒す。川島代表より今回の行動の謝辞があり、私達は奥村さんの車で補給路登山口へ、青木さんは大阪に帰る。

今回の点検巡視で、玉置山から行仙宿までの奥駆道は終わった。春山は天候の変化で、真冬の様な厳しい寒さと風雪を伴う事を経験した。装備や安全対策等多くの教訓を得たことは、非常に有意義な活動であった。

### 行動タイム

新宮 6:00 → 7:35 補給路登山口 7:45 → 8:25 行仙宿 8:45 → 9:00  
 八大金剛童子 → 10:35 笠捨山 10:50 → 11:15 葛三辻 → 11:30 鉄

塔 → 12:00 地藏岳 → 鎖場 12:10 → 12:50 四阿宿(昼食) 13:15 →  
 鉄塔 13:35 → 14:10 貝吹野 → 14:30 塔ノ谷峠 14:40 → 古屋宿分  
 岐 15:20 → 15:40 21世紀の森 16:00 → 16:40 補給路登山口  
 16:45 → 18:15 新宮。  
 (濱野 記)



積雪した四阿宿での昼食



21世紀の森の東屋にて